

まず大切なのが、あなたの住環境や家族構成、ライフスタイル、体力、経済力などを考えて、飼う目的に合ったペットを選ぶことです。

生き物を飼育するということは、毎日365日飼育するということです。

飼育とは食べ物や水を与えるだけではありません。ペットの習性・性格を理解し、ニーズに応じてあげることです。「犬のニーズとは、バランスのとれた食事、散歩などの適度な運動、安心して眠れる場所などに加えて、本能を満足させる遊び、社会的刺激（飼い主や他の人・犬・猫との触れ合いなど）といったことです。」

「犬は生涯を通じてしつけが必要ですが、特に最初の三年間は充分時間をかけるよう心がけて下さい。幼い時期に時間をかければかけるほど、後々犬との生活を楽しめます。」「特に、早期に母犬や兄弟犬と離されてしまった子犬は、犬に対する社会性に欠けるだけでなく心身ともに不安定です。そのため体調を崩しやすいばかりか攻撃的であったり、神経質な犬に成長しやすいのです。」とも書かれています。

Sundman先生らの論文（SCIENTIFIC REPORTS、2019年）にも、「飼い主さんの神経症的傾向は、犬に悪い影響を与え、飼い主さんの協調性（誠実性）や外向性（寛容性）は、犬に良い影響を与える」と報告しています。簡単に言うと、飼い主さんが明るく、いつもニコニコと笑顔で接してくれる方であれば、動物も明るく優しい性格になりやすく、飼い主さんが神経質気味な方だと、動物も神経質になってしまいがちです。児童精神科医のドナルド・ウィニコット先生は、「最良の母親とは、まあまあの母親である」と言っています。

また、犬猫の寿命は平均13~15歳。人間の寿命と比べると短く感じますが、動物の1年は、人間の4~7歳分に相当すると考えられています。いずれにしろ、10年以上一緒に暮らしていく訳ですから、人間の体力（年齢、病気）も重要ですし、経済力も大事です。動物を飼育する為には、車1台分の費用が生涯必要になるとっておられた大学の先生がいます。

しかし、もう既に飼育を開始している方がほとんどでしょう。そのような方は、上記のことがなおさら重要になってきます。特に「しつけ、トレーニング」は食事の前が効果的です。まずは、基本の「お座り」「待て」などから。最初は少しでもできたら、頭を撫でるなど褒めてあげましょう。猫も近くに寄ってきたら、軽く頭を撫でてあげましょう。嫌がらないようだったら、今度は、顔や口・鼻、できれば足先なども触れるようになりましょう。次は、口を開けてカリカリフードを1粒（図2:犬も猫もほとんど同じです。）

また、キャリーバックやケージの中でフードを少し与え、「安心できる場所」というイメージをつけましょう。災害時や外出時に必要です。決して無理強いせず、少しずつ繰り返し実施しましょう。人間もそうですが、決して1回や2回で覚えることはできません。しつけやトレーニング法の詳細は、専門書を参考にして下さい。「しつけ教室」などに参加する事も良い方法です。但し、「犬たちをおくる日」（金の星社、2009年）の著者、今西乃子さんが書いているように“「しつけ教室」とは、「犬のしつけ」ではなく、実は「飼い主さんのしつけ」教室のこと。ペットに関して、がんばり過ぎないように、疲れないように、嫌にならないように。これ、犬を幸せにする基本。”

